

道路教育論(二)

井上弘道

四

都市に於ける道路教育は農村のそれに反して極めて複雑、雑多、多産的である。これは、勿論都市のもつ特質に由來するものである。そこで、われ／＼は先づ都市のもつかゝる多様性に就いて一應解明してをく必要があらう。都市と農村との區別は、或る數字學的統計學的論者——尤もこれが今日の行政的區分を可能にしてゐる一般的觀念なのであるが——によれば、人間の數の多少にありとされてゐる。人口三萬以上を市と云ふに値する資格の條件とかにされてゐるとかのことであるが、これもやはり都市を人口量に換算し抽出説明したものであつて、眞の都市性を理解せしめるものではない。人口量の多いことは、たしかに都市のもつ一現象であるには違ひないが、しかしそれだけで以つてしては都市と農村とを區別せしめるに足る根本的論據とするには充分ではない。

われ／＼が問題とする道路との關聯下に於いて云ふならば、むしろ人口の數的多量と云ふことよ

りもその人口の動的多量と云ふことに注意を拂はなければならぬ。換言するならば、交通量の大きなることが都市性を決定する重要な論據を提供するものである。例へば、特に六大都市に於ける道路行政が重要視してゐるが如くは、農村は靜的であるが都市は動的であると云はれてゐる。この動的であると云ふことは——それとスピード的と云ふことは必ずしも同意義ではないにしても——必然的にスピード的であることを結果する。即ちスピードに歩行すること、さらにスピードに於けるために電車や自動車や自動車が運轉されて農村に於いては見られざる教育標本を提供してゐる。スピードにして且つ交通量の大きなることは、われわれの接觸する對人對物關係を豊富ならしめる。道路を歩むとき、われわれの目と耳は對象に對應するに違ない。所謂目車しい現象が路上に展開されてゐるのである。こゝに、われわれは農村に於ける道路教育とは異つた性質をもつ、獨特の都市道路教育の現象を豫定しなければならぬだらう。

更に、都市の道路の特質を決定するものは、かゝる量的多量のみではない。それよりもつと重要にして且つ根本的な都市道路の特性を決定付けるものは、質の方面である。多量なる人間の接觸を可能ならしめてゐる都市の道路は、多種なる人間の接觸を可能ならしめてゐると云ふことが出来るのである。農村に於いては、道路は一つの面識社會の磁場を形成してゐたのに反して、都市に於ては同質人間ではなく異質人間との接觸が非常に多く行はれてゐる。言葉を換へて申すならば、農村は農民が絶對多數を占めてゐたのに對して、都市に於いてはあらゆる階級、あらゆる職業、時には外國人

——その外國人もまた種々なる國籍と種々なる職業やまた性別などの相異をもつてゐる——までもが天下の公道を潤歩してゐる。軍人と云つても、陸軍あり、海軍あり、さらに將校あり、下士あり、兵ありである。實業家とおしなべて云つても、それには自動車に乗るものあり、自轉車に乗るものあり、歩行するものあり、使用者あり、被使用者あり、米屋あり、魚屋あり、定劑屋あり、運送屋あり、洗濯屋あり、その他實に以て凡てを列擧するには日が暮れるほど多種多様にある。男あり、女あり。しかも此の女には、有閑マダム、令嬢、女給、踊子、奧様、藝者、賣子、ストリートガール、タイピスト、女醫、産婆、學校教師、女僧、救世軍、女士官、女醫、專學生、美校生、音樂家、仕立屋、女車掌、バスガール、女優、大島椿油賣女、女工、ヨイトコマケの女、女相撲、女中、女看守、女乞食、女スリ……エトセトラでこゝに擧げるべくその種類の多きにへきへきし、根氣負けをする位である。試みに、一分間のタイムウオツチを片手にして、都市道路の任意の一點に位置し、その地點の交通量と交通質とをレコードしたものを作製されるならば、如何にも都市道路のもつ決定的特性としての興味ある現象を確認し得られるであらう。

然も此等の異質なる人間が遠慮するところなく、それぞれその奇異とすることこの特長をば充分に發揮して潤歩してゐるのである。農村の道路は面識社會の作用する基礎となるが故に、極めて拘束力が強烈に作用する。都市は此の反對である。異質の人間の接觸する道路換言すれば都市道路は赤の他人との瞬間的接觸——或はこの場合にはむしろ通俗的な言葉でスレチガヒと云つた方が當つてゐるだらう——であるが故に、所謂アツカマシキ現象が屢々展開し勝ちである。百面相の展

開である。

それのみではない。都市道路特有の現象として、道路寄生的人間群がある。乞食、乞食と云つても非常に種類が多いらしい。モヒ中乞食、盲目乞食、天刑病乞食、親子乞食、イザリ乞食など種々あるようだ。さらにまた、ステツキガール、ストリートガールも都市道路の特有現象である。スリ、これも都市道路の特産物である。まだある、大道藝人、大道易者、香具師一連など、その他、ゴミバコ、これをアサル人間、鼠の死んだのを自動車がいいて臍腑の露出した奴尻をぶたれる牛と馬。寄附金募集の人々。夜ともなれば夜をりて朝までに消える、と云ふ露店がズラリと路上を占領する。此れらがすべて都市道路教育の生きた教材なのであり先生なのである。

更に農村道路と異なるのは、道に自然的風物が――此れはそのまゝ農業教育をして免れるのであるが――立並ぶことの代りに、商店が住宅が工場が雑然と軒を差出し、廣告がやたらにわれ／＼の目を疲労せしめる。路上には、人聲の――と云つても實に種々ある夫婦喧嘩の聲と子供を叱る聲その他あることだらう――の外に、電車、自動車、ラジオ、レコード、チンドンヤの音などが、種々なる内容を持つてわれ／＼の耳朶だけではない魂までもシンガイせしめる。都市の道路は更に、われ／＼の鼻の神經をも強烈に刺戟する。農村の自然などこまでも農村的な香氣の代りに、都市はどこまでも人工的な強い嗅氣が路上に漂ひ、われ／＼の精神までも狂はしめる。かくの如く、われ／＼の目、耳鼻その他すべての器官が總動員させられるべく、都市の道路は出來てゐる。

以上の如きが都市道路の特色をなしてゐる。

五

しからは都市道路教育現象如何。われは農村に於ける道路教育がその同質的特性や保守的特性などの故に極めて體系的組織的であり得たのを見た。しかし都市に於いてはこの反對に、それが異質的でありスピード的であるなど其他の理由によつて非常に斷片的——或は不整頓的であり無秩序的である。そしてまたこのことは、教育の範圍が極めて廣いことを意味する。別な言葉で云ふならば廣い知識と早い知識を結果する。げに博識と早熟とは都市に於ける道路教育の特徴をなすものである。尙これらを價判斷の立場から觀た場合に於いては、子供にとつて好ましきものと共に寒心せざるべからざるもの——それは眞の或は所謂教育とは云はれぬかも知れぬが——あることを認めなければならぬ。

都會の子供はマセてゐるとよく云はれる。此の言葉は早熟を意味したものであらうが、只にそれだけではなく好ましからざる意味をも含んでゐる。農村の子供は道路教育に於いても家庭や學校の教育とさしたる相異——相異ありとするならば家庭と學校との中間項としての相異に過ぎない——をもたなかつたが、都市の子供は家庭や學校に於ける教育とは全然異つた教育を道路上に於いて受けるからである。たしかに教科書や子供の世界以上或は以外の現實的な時それは矛盾的な現

象が都市の道路には展開してゐる。子供はカフェーや待合に行くことなくして、カフェーや待合を目撃することによつて研究しその知識を獲得する。と云ふのは彼等は路上に於いてその存在を見るのみならず、女給や藝者の通行を見、或はまた男女の不可解な現象を見せつけられるからである。そのみならず街頭の看板や広告は、文字に對して好奇心乃至は關心をもつ子供たちの課外讀本——生きた社會讀本を提供してゐる。通りを漂ふレコードの歌詞は、唱歌以上の意味をもつた流行歌などによつて子供の心耳に訴へる。子供は必然的にマセざるを得ないのである。都會の子供は農村の子供以上に或に農村の大人以上に、實社會的知識を早くから多量に注入される。かくして都市の道路は速成教育の道場である。

學校や家庭では隣人愛、動物愛護などの思想を注入されるだらう。しかし道路と云ふ學校は矛盾した教育？ をするのである。乞食の存在は非常に複雑にして且つ深刻な教育と教育？ をする——これは實に都市道路獨有現象として印象深い。家相觀の存在は、科學的學校教育を受けた子供に對して、或は大人に對して、迷信教育を施して呉れる。その他、子供たちは目を以つて動いてゐるものをマザマザと見る。それだけ迫力がある。將軍や博士や金満家を彼等は路上に於いて目撃する。生きた教材に觸れるのである。その良き方面は所謂向上心が刺戟を受けることだ。

また、都市道路には他人が通行す。面識者の往來ではない。中にはスリも混入した群衆中を通行するのである。油斷が出来ないことゝ注意すべきことが教へられる。そのみではない、自分の身

は自分で處理すべきことの必要に迫られることによつて、個人的な獨立自主の精神が涵養される。これは都市の子供の早くして體驗し得る一ツの特徴である。交通量の甚大はまた油斷することが直接自己の生命をも失はせることの危険は注意力を強化せしめると共に、それはまたゴーストツプの信號と共に、子供に對して早くより實際的な切實感を以つて規律に従ふべきことを訓練することの言ひ換へるならば、親とか學校の先生とかの命令の外に——農村道路に於いてはみられない——公の命令の行はれることの現實とその必要とを熟知せしめる。即ち、公的秩序に對する遵守すべきの精神を養はさせるのである。

道路が社會教育の道場であるのは、單に子供に於いてのみではない。道路は成人教育をもする。これに就いては第四項に擧げた教材に就いてお考へられたい。新聞雜誌、ラヂオによつて或は會社、家庭によつて得られざる動く種々雑多な知識をば路上によつて得ながら、われわれの社會的知識と或は社會生活の内容を豊富化複雑化せしめ、かくして進歩せしめる。實際、われわれが殆んど勞することなく道路から受けるところの教育は、都市に於いて極めて多い部分をわれわれの生活に占めてゐる。

六

以上、わすれられ勝ちな道路のもつ教育的機能に留意することによつて、われわれは社會生活に於

ける道路の重要性に更に一つの論據を發見し得たものと信ずる。道路の美化とか道路の愛護とか云ふ運動に於いても、その根底は常に道德的教育的配慮におかれてゐなければならぬ。その運動が社會生活を愛好せしめんが爲めのものであれ、或は人間を社會化せしめることを目的におくものであれ、或は人間の精神生活を向上せしめることに理由をおくものであれ、その他何れにしてもその運動はまた歸するところ道德的教育的論據に立つものであらねばならない。かくして道路がかゝる社會生活に重大なる影響をなしてゐることを認めるならば、今まで以上に——と言つても從來このことに就いては餘りにも放任の形におかれてゐるように見受けられるが——教育家も道路改良家も亦爲政者も共々に、道路に就いて考慮を一段と拂ふべきではあるまいか。即ち、道路上に於ける人的乃至は文化現象に就いて、それと共に道路それ自體などに就いて、教育的立場から再考し改良して行くべきものがあるように思へる。

都市計畫によつて面白からざる商業の家が一定の地域に隔離されるのは結構なことだ。しかし、それだけではならない。道路の文化現象に對してもつと教育的統制が行はれなければなるまい。一例を擧げるならば、廣告や歌の教育的立場からの制限、道路寄生的人間に就いての當局の再考的處置、非教育的な姿態を演ずる路上の漫步者に對する取締りと處置、その他。そしてまた、道路の偉力を認識したならば、道路のよりよき教育的利用に就いて努力を拂ふことは無駄ではあるまい。

道路を利用することに就いては右のことからに就いても考へられるが、その他今思ひ付いた一二

を參考までに擧げることゝ許されたい。銅像や記念碑はその由縁の場所や構内にをかるべきであらうが、これらは出来るだけ道路に附隨させて建立し而もその爲めに猫額大でもよいから空地をとつてベンチの一ツ位おいたらどうか。勿論、そう云ふ銅像や記念碑がないと云ふのではなく、現に所々方々で見受けられてゐるが、かゝる方法は、その銅像や記念碑の意義をより效果的にすることになるだらう。それから、道路や橋や坂に對して由縁の名稱を附し、それを記入した道標を可成多くわかり易く道路に立てることはどうか。これも現に行はれてゐないと云ふのではない。現にあるものが餘りにも強い印象と感激を與へるから、蛇足ながら附加へるにすぎない。みゆき通、みゆき橋、乃木坂、東郷坂、凱旋道路、上海に於ける白川橋、大連に於ける大山通りなどの名稱はその實體が路や橋自體ではあるが、これらのもつ意味の世界はわれ／＼に對して歴史の意識を喚起せしめ、生々とした姿をホウフツせしめる教育的効果大なるものがある。實に、生きた日常の教材である。青葉通りとか何とか云ふ名稱や國道一號路線などと云ふ命名は、或は文學的詩的でよいかも知れぬし、また事務的簡便的でよいかも知れない。恐らく、さう云ふ立場から呼ばれ名づけられたものであるであらうが、しかしそれは實に意味ないことであり、或は非社會的である。われ／＼の考へる教育的立場からするならば、青葉通りの代りにもつと國家的意義ある具體的固有名詞をつけてもらひたく思ふし、國道一號路線と云ふ代りに參宮國道とかなんとか正式にも呼んだ方が名實共に意義があり、われ／＼に訴へるところが甚大であると思ふ。事務を簡易化し能率化することに反對するもので

はないが、簡易化のために道路の眞の意義と性質を失ふことはよろこばしいことではない。路々に、參宮道路と道標を建て、おけば精神的教育的にもまた實際的道路保持のためにも效益は少くないと信ずる。

以上、大まかではあつたが道路のもつ教育的機能に就いて述べた。それは決して新奇な議論ではないが、たゞ往々にして忘れられ勝ちな此の方面を強調することによつて、われ／＼はこの方面をも眞剣に心して考へなければならぬと思つたのである。(了)